



広瀬大分県知事と ふれあいトークが実現

10月17日(水曜)午後2時から、広瀬勝貞大分県知事を迎えて、七島蘭振興会の皆さんとの「ふれあいトーク」が旧西武蔵幼稚園で行われました。まず、実際に表を織る工程や工芸品の製作風景を見学して頂き、三河国東市長も出席された中、約1時間に渡り、生産者の方を中心に直接知事に七島イの現状をお伝えすることが出来ました。

ある女性会員が「七島イが素晴らしいこれらから売り出そうと言われるなら、まず、県や市が買ってください。そうでなければ誰も信じてくれません」と発言され、大きな拍手喝さいを浴びてました。また、「空港にも展示をして欲しい」「新規参入者の待遇の改善」「織機の改良」などの要望が出ました。

振興会のメンバーの七島イに対する熱い思いを知事や市長に伝えることが出来たとても良い機会だったと思います。今後の展開が楽しみです。
(表紙写真: 知事を囲んで)

宇都宮御夫妻地域功労賞受賞



11月15日に東部地区農業振興大会が別府市にて開催されました。

その中で農業振興功労者表彰があり、長年に渡る七島イ生産による地域貢献の功績に対して、今年9月にお亡くなりになられた故、宇都宮務さん、並びにご婦人の日出子さんが地域功労賞を受賞されました。

大変な名誉であることをお喜びすると同時に、改めて宇都宮さんへの感謝とご冥福をお祈りいたします。

認定工芸士14名誕生

10月12日安岐町梅園の里にて、「くにさき七島蘭工芸士認定式典」が執り行われ、七島イ工芸品の織り手14人が「工芸士」に認定されました。

工芸士は昨年12月に始まった国の地域雇用創造推進事業でのセミナーを通じて育成されてきた男性2人と女性12人。年齢は26〜77歳です。

式典には旧安田商会の奥様で、円座やラグマットの技能を教えて頂いた特別顧問の安田清香さん(92歳)にもご出席頂き、戦後朝鮮から引き上げて来て七島イの事業を始められた事や、ご主人の事など、とてもしっかりと口調で皆さんにお話をしていただきました。

各社新聞、テレビなどにも取り上げて頂き、注目の集まる中、これからいよいよ船出となります。

(裏面に各人の一言を掲載)



七島イ工芸品販売開始

10月20・21日(別府)11月17・18(国東)でそれぞれ農業物産展が開催されました。

そこで、アウトレット品ですが、工芸士の作った円座とラグマットが販売されました。県内の七島イへの関心の高さと、工芸士の呼び込みのお陰もあり、青木本店舗の草履と共にたくさんの商品を上り上げていました。

年配のほとんどのお客さんが一様に「なつかしい」「昔作っていた」と口々に言われていたのが印象的でした。

この人に聴く

シリーズ「この人に聞く」第6弾は新たに「くにさき七島蘭工芸士」に認定されたばかりの13名の工芸士と1名の認定講師の方々に一言、今後の抱負や七島イに対する思いを伺いました。



皆さんが無事工芸士になれて本当に良かった。七島イ産業発展のため、一緒にがんばっていききたい。(認定講師・富永)

まだまだ知らない古い技術があるので、それらを身につけて成長して行きたい。(林)

三つ編みがまだまだ不十分なので、スキルアップを目指したい。なおかついろいろな物に挑戦したい。クゼをいかに無駄にしないようにするか考えていきたい。(井手)

テレビや新聞に報道され、友達より「これから頑張る」と声を掛けられ期待に添えられる様、頑張ります。(廣前)

工芸士になる為に半年の時間を費やして一生懸命がんばりました。工芸士の名前に劣らぬようこれからも日々努力しながら皆さんと一緒にがんばって行きたい。(中磨)

なかなか難しいのですが、皆さんについて行けるようがんばっていききたい。(本田)

来年は少しでも自分が編む分だけでも七島を植えたと思います。生産者の気持ちも解るし、子供の頃に手伝った事を思い出しながら、家族との思い出を辿りたい。(清原)

自信を持って提供できるよう、更なる技術向上に努力したい。この国東の宝を絶やしたくない！どうか生産する方が増えてくれるよう、工芸品がきっかけ

けになればという思いで頑張りたい。(北原)

さらに技術を身に付けてすてきな商品を作り、七島イ産業の発展に貢献出来るようがんばりたい(越智) 認定はされましたが自分としてはまだまだなので、三つ編みの品質を均一になるよう。とにかく今は技術を磨きたい。(小田)

貴重な七島イの香りに癒やされています。七島イのかわいい小物工芸品を作れるようになりたい。(西浦)

私は裏方でもあるので、皆さんを支えつつ、自分の技術の向上も計りたい。(一丸)

七島イの歴史



『七島い畳表の呼び名』

七島イ、で織った畳表を、古くから『青筵』(せいえん)と呼び、またの名を『せいひよう、あおおもて』と云うが、「青畳」(あおだたみ)といわれるとおり、「青表」独特の青味(学術的には、銀青白色)があり、青いことを、その特色としているので、その名が付けられたと思われる。

そこで、産地業者の仲間においては、今でも「青表」のことを略して、『青』(あお)と呼び、またの名を『むしろ』と呼び合っている。

また、七島イは、琉球地方におおく自生していた処から『琉球表』とも云い、消費地の問屋筋では「青表」のことを端的に『琉球』と呼ぶ人が多い。

一般には、『七島い表』と言う人が多く、豊後で産するから『豊後表』とも呼ばれている。

県では、この名称を統一して『大分青表』(おおいたあおおもて)と呼称し、公的表示、名称として使用している。

参考文献「豊後の七島い その歴史を追って」

大分県農業技術センター 前田 哲夫

七島雑感

私のような中年には全く馴染みの無いハロウィンも終わり、街にはクリスマスの飾りつけがちらほら見られるようになってきた。先月も年配のご婦人が神社で使っている円座があまりにも傷んできたので奉納したいと言ってきた。納期もなく予算もなく、それでも特大で十枚欲しいとのこと。工芸士さんに無理を言ってお作ってもらい納品に行くと、とても気に入ってもらって一枚は記念として自分で使うと言われた。また、新聞で見たと言われて年配のご夫婦が久留米から来られ、子供の結婚のお祝いにとという事で両夫婦のため四枚買われていった。使うほど味わいの増す商品は贈られた方も、贈り手の思いを長きに渡り身近で感じるのだらう。今年のクリスマスは両親に七島イの円座でもプレゼントしよう。

事務局長 細田 利彦

会員募集のお知らせ

途絶えつつある七島蘭の保存とともに、新しい地域産業として再生させるという趣旨にご賛同いただける個人ならびに企業の会員の募集をしております。

会員の方には、七島蘭の植え付け、刈り取りの農業体験や、生産者との交流会も開きたいと思っています。途絶えようとしていた七島蘭ですが、大分県や国東市の支援により再生への道筋もようやく見えてきました。

どなたでも気軽に参加できる会にしたいと思っています。会員一同、一人でも多くの方のご参加をお待ちしております。